

平成29年度に係る業務の実績に関する評価結果
国立大学法人鳴門教育大学

1 全体評価

鳴門教育大学は、高度な教職の専門性と教育実践力、かつ豊かな人間愛を備えた高度専門職業人としての教員の養成を最大の使命としている。第3期中期目標期間においては、「学び続ける教員のための大学」として、現職教員再教育の機能を強化した大学院重点化を図るとともに、教育分野を柱とする地域活性化・人材育成の中核拠点として、全国モデルとなる先導的な教育・研究を推進し、その成果を国内外に発信・普及することで、教育・研究を通じて持続可能な社会の実現に貢献することを基本的な目標としている。

この目標の達成に向け、学長のリーダーシップの下、徳島県の教員育成指標を踏まえた教育課程の改善や機動的な卒業生追跡調査による教育養成カリキュラムへのニーズ把握・分析に取り組むとともに、自己収入の拡大に向けた取組を戦略的に展開するなど、「法人の基本的な目標」に沿って計画的に取り組んでいることが認められる。

（「戦略性が高く意欲的な目標・計画」の取組状況について）

第3期中期目標期間における「戦略性が高く意欲的な目標・計画」について、平成29年度は主に以下の取組を実施し、法人の機能強化に向けて積極的に取り組んでいる。

- 上越教育大学、宮城教育大学、福岡教育大学と連携し、「いじめ防止支援プロジェクト（BPプロジェクト）」を推進しており、「いじめを考える」や「性の多様性の理解と学校現場でのいじめの現状」をテーマとしたBPプロジェクト徳島大会には、県内外の教育関係者や大学生、一般人等約590名が参加している。（ユニット「大学、教育委員会等と連携協力した『いじめ防止支援プロジェクト』の全国展開に関する取組）
- 開発途上国等への教育支援に貢献するとともに、国際教育協力を強みを持つ大学としてのブランド化を図るための方策として、JICA受託研修の積極的な受入れを進めており、これまでの受託事業を通じた教育支援のノウハウをアーカイブ化してHP上で公開している。（ユニット「グローバル教員養成のための学生研修及び教育研究機能の強化」に関する取組）

2 項目別評価

<評価結果の概況>

	特 筆	一定の 注目事項	順 調	おおむね 順調	遅れ	重大な 改善事項
(1) 業務運営の改善及び効率化			○			
(2) 財務内容の改善		○				
(3) 自己点検・評価及び情報提供			○			
(4) その他業務運営			○			

I. 業務運営・財務内容等の状況

(1) 業務運営の改善及び効率化に関する目標

①組織運営の改善 ②教育研究組織の見直し ③事務等の効率化・合理化

【評定】中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載10事項全てが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。

(2) 財務内容の改善に関する目標

①外部研究資金、寄附金その他の自己収入の増加 ②経費の抑制 ③資産の運用管理の改善

【評定】中期計画の達成に向けて順調に進んでおり一定の注目事項がある

(理由) 年度計画の記載8事項全てが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められるとともに、一定以上の注目すべき点があること等を総合的に勘案したことによる。

平成29年度の実績のうち、下記の事項について注目される。

○ 自己収入獲得推進マネジメント室を核とする戦略的な外部資金獲得

「自己収入獲得推進マネジメント室」を新設し、学内の全部署・全教職員から受け付けた62件の自己収入獲得方策の中から18件を選定し、方策ごとに個別の「管理表」及び「工程表」の作成、月別に細分化された計画の作成、担当部署への期中進捗確認等、戦略的・計画的に取り組んだ結果、外部資金獲得額が年度計画に掲げる1億円を大きく上回る約2億1,700万円に達している。

○ 鳴門教育大学基金拡充の取組等による外部資金比率（寄附金）の上昇

鳴門商工会議所との連名での会員企業76社への基金案内文の送付や役員による企業22社への個別訪問、開学以来の全同窓生を対象とする7,000名分の基金リーフレットの送付など、鳴門教育大学基金拡充のための取組を積極的に展開した結果、総額約6,458万円（対前年度比約18.6倍）の寄附を獲得し、平成29年度における寄附金に係る外部資金比率は約1.9%（対前年度比約1.3ポイント上昇）となっている。

（3）自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標

①評価の充実 ②情報公開や情報発信等の推進

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

（理由） 年度計画の記載3事項全てが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。

（4）その他業務運営に関する重要目標

①施設設備の整備・活用等 ②安全管理 ③法令遵守等 ④環境マネジメント

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

（理由） 年度計画の記載9事項全てが「年度計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。

Ⅱ. 教育研究等の質の向上の状況

平成29年度の実績のうち、下記の事項について注目される。

○ 諸外国からの教員等の積極的な受入れ

開発途上国等への教育支援に貢献するとともに、国際教育協力を強みを持つ大学としてのブランド化を図るための方策として、JICA受託研修の積極的な受入れを進めており、平成29年度は、年度計画（3件）を上回る7件を受託し、モザンビーク共和国等26か国から延べ90名の教育関係者を研修員として受け入れている。

○ 「とくしま教員育成指標」を反映した教育課程

「鳴門教育大学・徳島県教育委員会連携協議会」の下に、新たに「教員養成研修検討部会」を設置し、徳島県における「とくしま教員育成指標」を踏まえた協議の内容を大学院課程の教育に反映させ、カリキュラムマネジメント力や企画経営力、特別な配慮を要する児童生徒への理解・支援力など求められる能力を育成するための科目を増設している。

○ 機動的な卒業生追跡調査の実施

同窓会と連携することにより、開学以来30数年間全ての卒業生・修了生（住所等データを管理できている7,000名／総数約10,000名）を対象とする大規模な追跡調査（「職位」、「勤務地」、「初職を辞めた理由」、「本学で習得した資質・能力等」の項目についてWeb形式で調査）を実施し、分析した結果をもとに、養成・採用・研修の水準向上を図ることとしている。